

施策評価シート【分野別施策】

施策名		関係部
1 -	活発な市民の交流を促進する	企画政策部、市民部

所管事業に関連する成果指標

指標名	単位	改訂計画 策定時	実績値				5年度 目標値
			2年度	3年度	4年度	5年度	
友好都市との小学生交流事業の参加者数（年間）	人	-	19,179				320
国際交流活動推進事業参加者数（年間）	人	4,509	1,006				6,190
外国籍市民相談窓口人数（年間）	人	166	461				1,680
市民・大学交流委員会主催の事業数（年間）	事業	14	6				18

関連事業

友好都市交流推進事業 国際交流活動推進事業 多文化共生推進事業 市民・企業・大学等交流事業

決算額

	2年度	3年度	4年度	5年度
事業費(千円)	6,935			
執行率(%)	50.56			

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

「友好都市との交流」

コロナ危機で予定した事業は中止となりましたが、新しい生活様式や既存事業の課題を見直すことで、インスタグラムを活用した写真コンテストを実施するなど、友好都市との交流を継続することができました。

「姉妹都市との交流」

コロナ危機で予定した事業は中止となりましたが、ローレンス市において「平塚市に感謝する週間」を宣言するなど、両市の絆を再確認しました。また、リトアニアから国際交流員を任用することで、市民の国際感覚と国際意識を高めることに寄与しました。

「多文化共生社会の推進」

外国籍市民相談窓口は14言語で対応し、母語で情報提供を行うとともに、令和2年6月からは1階に窓口を移転したことで、市民の利便性が向上しました。また、「出入国管理・在留資格相談」を始めたことで、国と連携して外国籍市民を支援することが可能となりました。

「市民・大学交流」

平塚市民・大学交流委員会の文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光の5つの推進部会により、6つの事業を実施し、相互の交流が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業の中止があり、事業数や参加者数が減少しましたが、開催方法の工夫により事業を実施しました。

施策を推進する上での「課題」	課題解決を図るための「取組方針」
<p>「友好都市との交流」 コロナ危機で対面による交流が難しいことから、新しい生活様式に合った事業へ見直しする必要があります。</p> <p>「姉妹都市との交流」 コロナ危機で対面による交流が難しいことから、新しい生活様式に合った事業へ見直しする必要があります。</p> <p>「多文化共生社会の推進」 外国籍市民相談窓口において令和3年度から15言語で対応していますが、窓口の周知と対応できない言語は「やさしい日本語」で対応する必要があります。</p> <p>「市民・大学交流」 市民、企業、大学等の交流を促進するため、より多くの参加者が得られるよう工夫を凝らす必要があります。</p>	<p>「友好都市との交流」 新しい生活様式に合った事業へ転換するとともに、既存事業の課題を見直し、各友好都市の魅力を紹介していきます。</p> <p>「姉妹都市との交流」 新しい生活様式に合った事業へ転換するとともに、既存事業の課題を見直し、姉妹都市の魅力を紹介し、市民同士の交流を推進していきます。</p> <p>「多文化共生社会の推進」 引き続き外国籍市民相談窓口を多言語ちらしの配布によって周知に努め、職員が「やさしい日本語」で対応できるよう研修を続けていきます。</p> <p>「市民・大学交流」 市民、企業、大学等が相互に発展するため、事業実施結果の振り返りを踏まえ、事業内容の見直しや新規事業の提案、各部会間の調整を行います。</p>